

2024年度末人事異動について県教委と交渉

人事異動は最大の勤務条件！ 本人の希望と納得を！！

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

<http://kakyoso.com/>

香教組は2025年1月29日、県教委と「2024年度末人事異動」について交渉を行いました。



挨拶する石川委員長

香教組石川委員長は、交渉に先立つ挨拶で「香教組は人事異動は最大の勤務条件と考えている。本人や家庭の状況をよく聞き取り、希望と納得に基づく人事異動を行うこと」を求めました。

希望と納得に基づく人事を

香教組 これまでの人事異動で、次のような事例があった。

一つは、本人が希望していないのに校種間交流人事になった人がいる。中学校から小学校に異動になり、働きにくい状況の中で病気になる人もいた。

二つ目は、希望に反する人事である。本人が異動希望先を具体的に書いているのに、まったく書かれていない学校への異動になっていることがある。なぜ、そうなるのか分からない。三つ目は、校内人事になるが

代わって来た人に重たい分掌を持たせたり、難しい学級を持たせたりしたこともあった。また、高瀬中には夜間学級が設置されているが、希望していない教員を配置しないでもらいたい。本人の希望を尊重した人事を行ってほしい。

県教委

異動の希望は教職員調査票や人事面談を通じ、できる限り本人の希望を考慮しながら配置を検討している。全体の多くの人を人事異動するので、必ずしも希望に沿わないケースがあることは理解してもらいたい。

香教組

夜間学級は昼の学校と勤務形態に差がある。校種間交流のような違いがある。

県教委

人事異動の基本的人な考え方、夜間学級は校種間交流と同じように扱っている。育児に関わっているような人の異動は配慮しなければと考えている。

香教組

人事だから、一辺倒に職能成長や全体の利益のために働きなさいというのではなく、温かい気持ちと細やかな聞き取りをお願いしたい。

県教委

本人の意向はしっかりと尊重したい。管理の方で人事面談も行っている。多分、他県よりも丁寧をやっている方だと思うが、そういう要望を言ってもらって、それを踏まえながら、人事を行っていき

本人への内示を

香教組

私たちが特に問題にするのは、小豆島地区への異動である。1週間前に、校長から小豆島町の小学校への異動になっていると急に言われる。なぜ、自分が行くことになったのか分からないで不安になる。また、転居のこともない。大きな異動、転居を伴うものになっていくというのを1ヶ月前に言ってもらえるとありがたい。

県教委

1ヶ月前というのは、気持ちとしてはよく分かる。人事異動は教育委員会だけでなく、県全体の計画の中で行っている。また、学校ごとに適材適所を考えながら最後の最後まで調整をしているので、現時点で簡単に前倒しはできない。1ヶ月前ということはしっかりと承りたい。



交渉に参加された県教委の皆さん

公平公正の人事とは

香教組

人事異動は、任命権者の権限と責任において公平・公正に実施するとしているが、公平・公正について県教委はどのように考えているか。

公正に実施するとしているが、公平・公正について県教委はどのように考えているか。

県教委

特定の人の限ったとか、偏った意見を聞かない。県全体の利益を考えて人事異動するというのが公平・公正だと思う。ハラスメントとかがあると、しっかり耳を傾け、教員が潰れてしまうことがないように、配慮は当然しなければならない。教職員調査票や人事面談で意見を聞くとともに、校長や市町教委からも意見を聞くようにしている。

新規採用者の異動

香教組

新規採用者については、人材育成の視点に立った人事異動を行っているとしているが、新規採用に人が次の学校に異動しても落ち着いて取り組みを力に伸ばせられることが大事だと思う。

県教委

新規採用者については、1年目の配置はどこの地区を希望するかを聞いて意向を踏まえて行っている。その後、どういうキャリアステージを上がっていくかは県教委もしっかり考えなければいけないと思っている。本人の希望を踏まえながら、市町教委とも意見交換しながら、人材配置に努めたいと考えている。

香教組

ここまでの話の中で1ヶ月前の内示は難しいということだったが、打診はできないか。特に島への異動は住居のこと

県教育委員会との交渉の度に感じるのは「学校現場に先生を増やして」



学校に先生を増やして！

給の4%から5%、そして段階的に10%にするというものです。これでは長時間労働の解消につながりません。給特法については、埼玉県等の超勤訴訟で一番の裁判所が「給特法はもはや教育現場の実情に適合していないのではいか」との思いを抱かざるを得ず」と指摘するほどです。各々学校では、〇時退勤とか「早く帰りましょう」という声がかかっているところがあります。学校現場は授業の準備など様々な業務があります。そのためには、業務量に見合った教職員数の確保が必要です。人を増やすとすると財源がないと言いますが、以前は教育予算より少なかった防衛予算は、今は教育予算の倍になっていきます。「教育は人なり」と言われます。国にはしっかり考えてもらいたいのです。

ともある。小豆島に先生が足りないのは承知している。しかし、行く人の立場に立つて、ある程度のところでは、3年経ったからということでは、3年経ったからということでは、機械的に異動することがないようしてもらいたい。

香教組

教職員調査票の提出が以前より早くなった。人事は早くできないか。

県教委

人事について行政側の人事異動も踏まえてやっている。また、職員調査票などの意見を聞いて配慮するには時間がかかる。提出が1ヶ月早まったから人事も1ヶ月早まるということではない。

香教組

間違いないように丁寧にするのは分かるが、全部が全部というのではなく、転居の可能性があるなど特定な部分については分けて考えてもらいたい。

教職員増を

香教組

学校現場は授業だけでなく、給食を含めさまざまな活動がある。教職員は、子どもたちの安全面も引き受けている。することは多い。そんな中で、誰か先生が休むと代わりに授業をした

り、活動に参加したりする先生が必要になる。時には、管理職が代わりに入っていることがある。本当に、先生が少ないうえに実感する。教職員定数を増やしてもらいたい。国に定数改善を要望するとともに、加配教員も

保してもらいたい。



県教委

県教委としては、必要な教職員を確保するためには正規教員の増員が必要であるというのが基本的考え方である。今年度は小中学校の条

例定数を増加、新規採用教員の増加を行った。来年度についても検討していきたい。小中学校の35人

学級の実施、県独自の予算措置も行っている。県教委としてできる施策を検討している。また、国に

対しては基礎定数の見直しを毎年要望している。引き続き、国に

対してしっかりと働きかけを行っていききたい。教職員定数は大事なことだと認識しているので、でき

る対応を検討していきたい。

香教組 定数の確保について

県教委 分はしっかりと配置

香教組 当初想定する部

県教委 分はしっかりと配置

香教組 文科省との話し合

職員調査票について

香教組

教職員調査票の表

面を校長に提出する

が、その際に下段の

異動の希望のところに

する校長がいる。書き

直しを求めた校長もいた。本人

の意思が尊重されない。「教職員調

査票の記入の仕方」に

書かれていることを守

るように指導してもら

いたい。また、裏面の

記述欄には学校につ

いて思っていることを

自由に書けるというこ

とを校長が周知するよう

夜間学級について

香教組

夜間学級への勤務は強制しないとい

う解釈でいいか。全

体を見ながら、希望

なので、希望して

いても異動のタイ

ミングとかいろいろ

なことを勘案しな

ければならない。全

体を見ながら、た

教育長から

人事異動の話だったが、人事異動については各自の事情をしっかりと尊重したい。形式的にするのではなく、柔軟に対応することで実質的な公平・公正という観点から進めていきたい。特に転居に関する異動について意見があった。早めの打診という強い要望があったことは、改めて承りたい。しっかりと要望とさせてもらいたい。教職員定数の話については、制

度・仕組みに関するものである。定数を増やすということで整理しないとも始まらない。教員を確保していく、具体的に配置するという対策を実務上しっかりとしなければならぬと改めて感じた。基礎定数の増加を国に要望するのは当たり前だが、国の加配も含めて要望したい。県の独自措置も含めて、その時々教育課題はたくさんあるが、充実する方向で考えていくというのが県教委のスタンスである。引き続き、取り組みを理解してもらいながら進めてい

きたいと考えている。



回答する淀谷教育長（左端）

香川の教育をよくする県民会議 県教委に署名6412筆を提出

「ゆきどどいた教育を求める香川県署名」

2025年2月10日、「香川の教育をよくする県民会議（会長・北原孝夫高松協同病院院長）」は、県教委に2024年度の「ゆきどどいた教育を求める香川県署名」6412筆を提出しました。

- 「香川の教育をよくする県民会議」は、香教組、香川高教組、香川私教連の教職員組合や民主団体で構成されています。この「ゆきどどいた教育を求める香川県署名」には教職員を始め、幅広く県民の方に協力いただいています。
- 香川県が独自に小中学校で35人学級を実施しているのも、この署名活動が大きく影響しています。こんかいの署名提出行動では要求事項について各団体から意見を述べました。いくつかの要求項目を紹介し



署名を提出する香教組
安藤副委員長